－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法I						
担当教員	作井　恵子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜1	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	「英語科教員に求められる資質と能力の育成」をテーマに、英語科教員としての基礎的な知識と指導技法の習得を図るとともに、自己の適性を把握し、資質を身につける。
授業の概要	英語教育に関して基本的な知識と考え方を身につけ、実際の英語の授業を行う上での技能の習得を図る。 前期・後期とも、学期の前半は講義中心に理論や技法を学び、後半は中学校・高等学校の教材を基に教案を作成し、模擬授業やロールプレイも取り入れる。
到達目標	英語教育に必要な基礎的な知識・技能を身につけ、それを模擬授業などを通し実践する。
授業計画	第１回　英語科教育法の履修にあたって 第２回　英語科教員に求められる文法能力 第３回　英語科教員に求められる発音能力 第４回　中学校学習指導要領の考察 第５回　高等学校学習指導要領の考察 第６回　英語科教授法の分類と特徴 第７回　英語教育と異文化理解教育 第８回　コミュニケーション能力の育成 第９回　授業実施のための技法 第10回　学習指導案作成の基本 第11回　中学校での授業（模擬授業） 第12回　高等学校での授業（模擬授業） 第13回 中学校の授業の実際（DVDを用いて） 第14回　高等学校の授業に実際　（DVDを用いて） 第15回　前期のまとめと定期試験 第16回　Readinigの指導 第17回　Writingの指導 第18回　Speakingの指導 第19回　Listeningの指導 第20回 文字・発音・語彙の指導 第21回 文法とは何か 第22回　中学校の学習指導案の作成と検討 第23回　中学校の模擬授業 第24回　中学校の模擬授業および評価 第25回　高等学校の学習指導案の作成と検討 第26回　高等学校の模擬授業 第27回　高等学校の模擬授業および評価 第28回　考査問題の作成と評価 第29回　後期のまとめと定期試験 第30回　教育実習と学級運営
授業外における学習（準備学習の内容）	理論に関する事項は、教科書および参考書で予習・復習をする。実践的な模擬授業などは教案作成、教材作成などを十分に準備して授業に臨むこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	定期試験　４０％、 模擬授業とレポート　２０％、 平常点（提出物、意欲、態度）　４０％
教科書	JACET 教育問題研究会編「新英語科教育の基礎と実践　授業力のさらなる向上を目指して」（三修社）

参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法II						
担当教員	作井　恵子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	第二言語習得理論に基づいた語学教育をテーマとし、これについて基本的知識を習得しながら英語科教育法の実践に発展させることを目標とする。
授業の概要	第二言語習得理論か観点から、英語の基本学習活動（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）について学び、それを土台にして各学生がそれぞれ効果的な指導法を模索していけるよう、実践的な訓練を行う。
到達目標	第二言語習得理論についての概要を理解し、それを実践に応用できる。
授業計画	第１回　第二言語習得理論　概論 第２回　文法とは？ 第３回　第二言語習得理論からみたリィーディング 第４回　リィーディング教授法 第５回　第二言語習得理論からみたリスニング 第６回　リスニング教授法 第７回　すぐれた教授法　（DVDをみて） 第８回　これからの中学校・高等学校教員にもとめられる英語力（ゲストスピーカー） 第９回　中学校・高等学校教員における指導について：ライティング（ゲストスピーカー） 第10回　第二言語習得理論からみたスピーキング 第11回　スピーキング教授法 第12回　評価方法について 第13回 模擬授業および総括 第14回　音読、ティームティーチング、学級運営について 第15回　まとめと定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	第二言語習得理論に関しては、教科書および参考書を予習、復習として熟読し、授業に臨むこと。 模擬授業に関しては、教案作成、教材開発などを授業外で準備し、実践訓練に臨むこと。
授業方法	講義
評価基準と評価方法	レポート　３０％ 定期試験　４０％ 模擬授業　３０％
教科書	英語教員のための授業活動とその分析　（昭和堂）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	英語科教育法III						
担当教員	武藤　眞一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	英語科の指導に関する理論や知識及び実践的指導技法の習得
授業の概要	英語科教育法Ⅰ、Ⅱで身につけた理論や知識をもとに、教案の作成や模擬授業を行う。 英語の総合的な力を養うとともに、英語科教員としての実践的な力を養う。 模擬授業の自己評価、相互評価を通して、自らの課題を見つけ、指導力向上を目指す。
到達目標	教育実習や学校現場の指導に対応できる実践的指導法を身につける。
授業計画	第１回　英語科指導の理論と技法の復習 第２回　中学校の英語授業の実際 第３回　高等学校の英語授業の実際 第４回　中学校学習指導案の作成と検討 第５回　中学校の模擬授業 第６回　高等学校の学習指導案の作成と検討 第７回　高等学校の模擬授業 第８回　英語科教育実習の実際（教材研究について） 第９回　英語科教育実習の実際（授業展開について） 第10回　英語科教育実習の実際（評価について） 第11回　英語科教育実習のまとめと今後の課題 第12回　英語科指導の総合的検討（教材研究の在り方） 第13回　英語科指導の総合的検討（授業展開の在り方） 第14回　英語科指導の総合的検討（評価の在り方） 第15回　英語科教員になるにあたっての心構えと定期試験
授業外における学習（準備学習の内容）	指導案の作成には十分検討を加え、模擬授業に当たっては繰り返し練習する。 模擬授業後はDVDや講評を参考に自己評価する。 教育実習を控え、英語の4技能に加えて、語彙・文法・語法など総合的な英語力の向上を図る。
授業方法	講義に加えて、各自の作成した教案について検討を加えたうえで模擬授業を行う。 それぞれの模擬授業について全員で検討・講評するとともに、撮影したDVDにより自己評価も行い、指導力向上につなげる。
評価基準と評価方法	教案作成・模擬授業40%、定期試験30%、平常点（提出物、意欲、態度）30%で行う。 履修カルテの評価は上記の評価をもとに「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	その都度、補助資料を用意する。
参考書	「わかりやすい英語教育法　小中高での実践的指導」浅羽亮一ほか著(三修社)￥2400＋税 ISBN978-4-384-05554-2 「すぐれた英語授業実践　よりよい授業づくりのために」樋口忠彦ほか著(大修館書店) ￥2200＋税 ISBN978-4-24521-9 「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税　ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説　外国語編」（開隆堂）¥69＋税　ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税　ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税　ISBN978-4-304-04164-8

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	介護等体験						
担当教員	加藤　巡一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	介護体験を意義深いものとするために
授業の概要	中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この研究では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護、援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションのとり方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。
到達目標	各施設で迷惑をかけないで、充実した実習が出来ること
授業計画	第１回　制度の意義と内容 第２回　介護体験で何を学ぶか 第３回　社会福祉の意義「障害者の自立」 第４回　特別支援学校における教育 第５回　特別講師による講演 「介護の実践と留意点」 第６回　高齢者の福祉と介護 第７回　介護等体験の心得および諸注意 学校及び施設への訪問と視察指導 第15回　体験終了者の反省と課題発表
授業外における学習（準備学習の内容）	第８回から第１４回までを各施設（特別支援学校、高齢者福祉施設）での７日間の実習をあてている
授業方法	講義及び実習
評価基準と評価方法	レポート（80%）によるが、授業への取り組みの姿勢（20%）を考慮する
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法I						
担当教員	守野　美佐子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	教師として、自分は、「中学校、高等学校の家庭科の学習を通じて生徒たちに何を学ばせたいか、どんな力をつけさせたいか」を考える。
授業の概要	家庭科教育の意義と独自性 本講義は、中学校、高等学校の家庭科教員をめざす者を対象とし、中学校「技術・家庭」および高等学校「家庭」についての基礎的理解をはかることを目的とする。女子教育から男女共修の教科へ大きく変化をとげてきた家庭科教育の歴史をたどりながら、現代社会における中学校、高等学校家庭科教育の意義を考える機会としたい。現行の学習指導要領の解説を通して、家庭科では何をめざし、何を教えるのか、目標や指導内容の概要について学ぶ。
到達目標	家庭科の学習内容を把握し、自分自身の家庭科教育の目的を持つ。
授業計画	１．オリエンテーション　　「生きる力」を考える ２．家庭科とは ３．家庭科のあゆみ ４．現代生活の生活課題　１）家族関係 ５．現代生活の生活課題　２）家族と労働 ６．現代生活の生活課題　３）環境と消費 ７．現代生活の生活課題　４）情報化社会 ８．現代生活の生活課題　５）消費者問題 ９．現代生活の生活課題　６）社会保障とリスクマネジメント 10. 現代生活の生活課題　７）家庭生活の抱える問題 11. 学習指導要領　１）家庭科のカリキュラム 12. 学習指導要領　２）家庭科の学習 13. 家庭科の授業づくりの視点 生活スキル 14. 家庭科の授業づくりの視点 シティズンシップ 15. まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒たちが大人になるなるために必要な生活力とは何かを自分なりにつかむために、日常から、広く生活に関する事象に関心を持って情報をキャッチし、考える姿勢を養っておくとよい。
授業方法	おもに講義形式だが、自分で考えて判断することや、意見を発表したり、書いたりする方法をとる。
評価基準と評価方法	確認テストとレポート課題に受講姿勢を加味。
教科書	家庭科教育法ＩとⅡの講義共通で使用 中学校･高等学校　家庭科指導法　中間美砂子・多々納道子編著（建帛社）　ISBN4-7679-2102-0
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法II						
担当教員	守野　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭科の学習指導計画
授業の概要	本講義は、家庭科教育法Ｉの理解を基礎に、学習指導の計画、実践について力を養うことを目的とする。３年間、１年間、１学期間等の学習指導の計画の大切さを知り、学習効果を高める計画のあり方について考えてもらいたい。また、学習指導案の立案の仕方を学びながら、同時に多様な学習形態や学習方法を学び、各自で学習内容に合い学習効果を高める授業の工夫を考える機会を持ってもらう。実際に学習指導案を作成し、模擬授業を行いながら、指導計画や授業技術について相互に評価し合い、実践力を養うことを目指す。
到達目標	学習指導要領を理解し、自分の教育目標を明確にしたうえで、学年および年間の指導計画がたてられる。
授業計画	１．オリエンテーション　　家庭科教育で育成したい力とは ２．学習指導要領　１）中学校技術・家庭科の目標 ３．学習指導要領　２）高等学校家庭科の目標 ４．生活スキルの向上をめざす視点 ５．安全・安心・健康なくらしとウェルビーイング ６．家庭科教育における実践的なシチズンシップ教育の可能性 ７．生徒を取り巻く携帯・ネット環境の問題について ８．生活主体・責任ある消費者を育てる消費者教育と環境教育について ９．家計管理とクレジットについて 10．社会保障とリスクマネジメントについて 11．子どもの育ちと親役割の学習について 12．多様な学習形態 13．実験・実習を含む授業 14．家庭科の授業づくりと評価 15．まとめと質疑、応答
授業外における学習（準備学習の内容）	日常から、広く生活に関する事象に目をむけ、情報を収集し、理解を深める姿勢を養うようにするとよい。
授業方法	おもに講義形式で問題提起を行い、それについて、意見を発表、意見交換をする。
評価基準と評価方法	用語確認の小テスト30%　講義内の提出物30%　レポート40%
教科書	家庭科教育法ＩとＩＩの講義共通で使用 中学校　高等学校　家庭科指導法　中間美砂子　多々納道子編著（建帛社）、ISBN978-4-7679-2102-0
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	家庭科教育法III						
担当教員	守野　美佐子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	家庭科の教材研究
授業の概要	本講義は、家庭科教育ＩとⅡの基礎理解をふまえ、生活の必要な技術および実践能力を養う内容を含む授業の教材研究をおこなう。
到達目標	単元の指導計画の中に、実技実習および実践、体験を含ませ、主体的に実践しながら学べる授業を計画することができる。
授業計画	１．オリエンテーション　　学習の動機付けとは ２．学習指導案とは ３．学習指導案の書き方 ４．家庭生活と技術　調理の技術　縫製の技術 ５．健康的な食生活の実践力を養うために：１．指導計画　中・高 ６．健康的な食生活の実践力を養うために：２．調理実習の教材研究　中学校 ７．健康的な食生活の実践力を養うために：３．調理実習の教材研究　高等学校 ８．環境に配慮した生活の実践力を養うために：１．指導計画　中・高 ９．環境に配慮した生活の実践力を養うために：２．無駄を省く工夫を促す教材研究　中学校 10．環境に配慮した生活の実践力を養うために：３．リサイクルの小物制作を促す教材研究　高等学校 11．小さな子どもと家庭生活：教材研究　中・高 12．高齢者の生活の理解：　教材研究　中・高 13．ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 14．模擬授業と評価　１回目 15．模擬授業と評価　２回目
授業外における学習（準備学習の内容）	日常の生活に目を向け、必要な技術は何か、どうやったら身につくかを考えておくとよい。
授業方法	指導計画の作成と、教材研究およびその報告を中心におこなう。
評価基準と評価方法	指導案の理解20%　教材研究と報告（４回）80%
教科書	必要な資料は、その都度用意する。
参考書	自分自身が使用した中学校および高等学校の家庭科の教科書があれば　それを参考に使用する

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養教育実習						
担当教員	山北　人志						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	小・中学校の教育現場での様々な体験を総合的に修得する。
授業の概要	小・中学校の教育現場における教育実習では、学校教育の意義や食に関する指導の重要性を理解する。 また児童・生徒の実態を把握し、理解を深める。
到達目標	児童・生徒の実態を把握し、理解を深めて、栄養教諭としての必要な知識・技能・態度を修得する。
授業計画	１.「学校栄養教育実習の研究」を履修し、内容を修得する。 ２.コーディネーターとしての栄養教諭の職務内容を確認する。 ３.定められた期間、受け入れられた学校で教育実習に参加する。 ４.実習記録をまとめ、提出する。 ５.実習終了後、報告会で発表し、今後の検討課題を整理し、まとめる。
授業外における学習（準備学習の内容）	文部科学省の「食に関する指導の手引」を理解する。
授業方法	教育実習を主とする。
評価基準と評価方法	平常点等 (100) 評価内訳:実習校における実習成績評価 (40)、実施記録ノートの評価 (50)、その他提出物(10)
教科書	三訂栄養教諭論第２版(金田雅代編著)
参考書	文部科学省「食に関する指導の手引」(平成２２年３月改訂)

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	学校栄養教育実習の研究						
担当教員	山北　人志・加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	実り豊かな教育実習をのざして
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生がこれまで学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、および教職科目・一般教育科目の理論、知識を実践の教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。本研究は栄養教諭の役割を再確認し、指導力を向上させ、教育者としての使命感と自覚を深めることを目標としている。自ら課題を設定し問題意識を持つことが大切であり、それらを踏まえて様々な視点から探究する。
到達目標	栄養教諭としての必要な知識、技能、態度を修得する。
授業計画	概論 第１回　栄養教育実習の意義と課題 第２回　授業展開の実際 第３回　指導案の書き方 第４回　教案に基づいた模擬授業 第５回　栄養教諭による講義 第６回　生徒指導 基本指導 第７回　食に関する年間指導計画と研究授業の関係について 第８回　実習ノート、お礼の手紙の書き方について 課題指導 第９回　　指導案の検討及び授業の流れについて　（板書計画を含む） 第１０回　演習、授業反省（教材研究、板書計画、指導案の検討を含む） 第１１回　演習、授業反省（教材研究、板書計画、指導案の検討を含む） 第１２回　演習、授業反省（教材研究、板書計画、指導案の検討を含む） 第１３回　演習、指導案の検討、教材研究、教材作成 第１４回　演習、指導案の検討、教材研究、教材作成 第１５回　栄養教育実習を振り返って、体験報告
授業外における学習（準備学習の内容）	学校栄養教育実習にむけての、多方面からの食に関する情報を収集しておく。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	提出物(10)、指導案(50)、日課表(30)、演習記録および反省(10)
教科書	「教育実習の研究ノート」（本学教務部発行） 三訂栄養教諭論第２版　（金田雅代編著）
参考書	文部科学省「食に関する指導の手引」（平成２２年３月改訂）

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育課程論						
担当教員	大下　卓司						
学期	後期　前半	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	1.0

授業のテーマ	教育課程の編成
授業の概要	学校教育において何をいつどのように教え学ぶのかという問いに関わるのが教育課程（カリキュラム）である。本講義では、教育課程の編成に関する基本的な概念を検討したうえで、日本における教育課程の歴史的変遷について考察する。教育課程を問うとは、学校の教育内容の選択・組織という視点をもとに、学校教育のあり方そのものを問いなおすことでもある。
到達目標	学校の教育課程の編成に関する基本的な理論を理解することをめざす。具体的には、以下の２つを主な内容として取り上げる。１．教育課程の編成原理、２．日本における教育課程の歴史的変遷
授業計画	１．教育課程とは何か ２．教育課程の編成原理（学問中心主義と子ども中心主義） ３．教育課程の構造１（教科学習と総合学習） ４．教育課程の構造２（学力とは何か） ５．教育課程の構造３（教科学習と生活指導） ６．学習指導要領に見る教育課程の変遷１（戦後民主主義と経験主義） ７．学習指導要領に見る教育課程の変遷２（経済発展と教育内容の現代化） ８．学習指導要領に見る教育課程の変遷３（ゆとりと生きる力）
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業中に指示した教科書の該当箇所について予習をする。 授業後学習：授業で学んだことを整理し，ポイント等を教科書や参考書等で確認しながら復習し，理解を深める。
授業方法	講義形態による授業に加えて視聴覚教材を活用するなど，多様なアプローチによって授業内容に関する学生の理解を深めることを目指す。
評価基準と評価方法	平常点３０％（授業時の小レポートなど）、レポート７０％ 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	使用しない。プリント資料を配布する。
参考書	田中耕治他『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009年 田中耕治他『新しい時代の教育課程』（第３版）有斐閣、2011年

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育経営学						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	これからの学校に求められるもの
授業の概要	生徒が共に学び、共に成長できる学校教育の実践をめざし、学校教育目標、学校の組織・運営、教職員の協力・連携等から学校の経営の在り方について考察する。また、戦後の教育の歩みと主要課題を社会的変動の中で明らかにし、見え難い今後の教育の方向や課題を探り、少子高齢時代、生涯学習時代、高度情報時代の中での教育経営の在り方について探求する。また、教育経営の基礎となる教育関係法規について、教育行政や教育制度からの視点を加え学習を深める。
到達目標	学校の現状と課題を理解し、教育経営を法規上で解釈することができる
授業計画	第１回　教育経営の概説 第２回　学校経営と教育目標 第３回　学校の組織の構築（ＫＪ法） 第４回　発表と検討 第５回　学校の組織と経営の実態 第６回　戦前、戦後の教育制度 第７回　義務教育制度 第８回　現代の諸課題 第９回　教育法規の基礎と概説 第１０回　学校の管理運営と法規 第１１回　学習指導要領と法規 第１２回　教職員の服務と法規 第１３回　生徒指導と法規 第１４回　教育経営のまとめ 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習と法規演習
授業方法	講義とグループ討議
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（80%）として、発表の成果（10%）や授業への取り組み姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう
教科書	教育原理 教師養成研究会編（学芸図書）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する。
授業の概要	１．近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。 ２．学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で再考する。 ３．カウンセリングマインドをスキルと背景から理解する。 ４．教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 ５．「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。
到達目標	１．学生が身に付けてきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。 ２．教育学の理論のうち教育や子育てに役立つ部分を学生が活用する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第２回　高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第３回　高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 第４回　高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第５回　学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 第６回　学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第７回　学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾と勝負できるか？ 第８回　カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 第９回　カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返る 第１０回　教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？ 第１１回　教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 第１２回　教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第１３回　教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第１４回　教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第１５回　レポートの返却と成績評価の還元
授業外における学習（準備学習の内容）	１．教科書を使いますが各自でも読んでください。 ２．参加者が自分の物語をテキストにしてください。
授業方法	１．前半は講義を中心に進めます。 ２．後半は活動を取り入れます。 ３．途中で映像も折り込みます。
評価基準と評価方法	１．平常点４０点（コメントカード、レポート発表など） ２．レポート６０点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） ３．履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡　靖						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業のテーマ	現代日本の教育問題を教育学の概念で分析する。
授業の概要	１．近代的な学校教育制度の歴史と成り立ちを説明する。 ２．学校化社会を業績原理とジェンダーの視点で再考する。 ３．カウンセリングマインドをスキルと背景から理解する。 ４．教育評価に関するいくつかの類型論を比較検討する。 ５．「教育」をめぐる常識と定義の違いを明らかにする。
到達目標	１．学生が身に付けてきた内容を教育学の概念で反省的に振り返る。 ２．教育学の理論のうち教育や子育てに役立つ部分を学生が活用する。
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング 第２回　高校と大学の違い(1)：皆さんが気づいたズレと理由は？ 第３回　高校と大学の違い(2)：学校系統図と就進学率の歴史 第４回　高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？ 第５回　学校化社会の戦略(1)：帰属原理と業績原理はどう違う？ 第６回　学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理の間には？ 第７回　学校化社会の戦略(3)：学校は授業で塾と勝負できるか？ 第８回　カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンター 第９回　カウンセリングマインド(2)：中国の小学校から振り返る 第１０回　教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？ 第１１回　教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括の三段階 第１２回　教育の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代的教育 第１３回　教育の常識から定義へ(2)：「発達への介入」として 第１４回　教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント 第１５回　レポートの返却と成績評価の還元
授業外における学習（準備学習の内容）	１．教科書を使いますが各自でも読んでください。 ２．参加者が自分の物語をテキストにしてください。
授業方法	１．前半は講義を中心に進めます。 ２．後半は活動を取り入れます。 ３．途中で映像も折り込みます。
評価基準と評価方法	１．平常点４０点（コメントカード、レポート発表など） ２．レポート６０点（授業を踏まえて現代日本の教育問題を論じる） ３．履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0
参考書	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育指導論						
担当教員	赤津　玲子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	対人援助場面における理論とコミュニケーションスキル
授業の概要	学校には様々な事情を持つ児童・生徒が集まっており、教師は個別に適切な支援を行うことが求められている。そのためには、様々な場面において相手との信頼関係を作ることが必要である。本講義では、様々なカウンセリング理論やコミュニケーションについて学び、良好な人間関係を構築するための基本的なスキルを身につける。
到達目標	対人援助のための理論とコミュニケーションスキルの獲得
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　コミュニケーション（１）基礎 第３回　コミュニケーション（２）応用 第４回　コミュニケーション（３）演習 第５回　コミュニケーション（４）グループ発表 第６回　様々なカウンセリング（１）フロイトの精神分析やユングの分析心理学 第７回　様々なカウンセリング（２）ロジャーズの来談者中心療法 第８回　様々なカウンセリング（３）認知行動療法、ブリーフセラピー 第９回　学校現場に必要な精神医学的問題 第10回　小学校における事例　児童の不適応問題 第11回　小学校における事例　ケース会議や他機関との連携 第12回　中学校における事例　保護者や生徒への対応 第13回　中学校における事例　保護者へのコンサルテーション 第14回　学校現場で使えるリラクセーション技法 第15回　総括とテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて講義概要のプリントを配布しますので、自分で要点をまとめるようにしてください。
授業方法	事例を提示しながらの講義とDVD
評価基準と評価方法	平常点　30%（出席状況、発表や発言による授業参加） レポート　30% 学期末テスト　40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	必要に応じて授業内で提示します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育心理学						
担当教員	藤本　浩一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	学校教育の心理学
授業の概要	教育場面では、複雑化する現代社会を反映して、知的伝達のみならず、情緒面での成長を援助することが重視される。自らが精神的に健康であるばかりではなく、円滑な人間関係を築き上げ、他者によい影響を与えることができる人間の形成が学校教育に期待される。この講義では、そのために必要な発達心理学や学習心理学の基礎事項をはじめ、子どもの意欲と学力、いじめ問題等の事柄について詳しく検討する。また、幼児から青年までの発達障害について、知能や人格特徴等の単一の要因によるのでなく、心身の相互作用によることを学習し、総合的に理解することを目指す。一例として、言葉の発達の遅れが知能面のみに起因するのではなく、構音器官の生理的な要因や聴覚の問題、そして二次的な心理的問題等を含んでいることがあげられる。そして通常学級においても、広範囲な子供達を対象にした心身両面にわたる特別支援教育のあり方をさぐる。視聴覚教材を併用する。
到達目標	教育活動に必要な以下の心理学的知識を身につける。①認知発達、②学習心理学、③情緒発達、④社会性の発達、⑤いじめ等の諸問題への対処法、⑥発達アンバランス（発達障害）
授業計画	１．わかる喜び学ぶ楽しさ ２．エリクソンの生涯発達論 ３．ピアジェの認知発達 ４．思春期・青年期 ５．社会性の発達と「いじめ」 ６．自己調整学習① ７．自己調整学習②、応用、記憶 ８．自己調整学習③、学習理論 ９．不適応、不登校 10.教室での発達障害 11.知能とはなにか１ 12.知能テスト 13.生徒の心理アセスメント 14.教師の心理、リーダーシップ 15.学級集団　筆記試験（持ち込み不可）
授業外における学習（準備学習の内容）	各回の予告テーマに沿った文献調べ（インターネット等を含む）と、授業中にとったノートの復習
授業方法	講義、討論、視聴覚教材利用
評価基準と評価方法	平常点（３０％）と学期末の筆記試験（７０％）により評価を行う。なお、履修カルテについては「意欲」「知識」「適性」の３つの観点を考慮する。 成績不振による再テストは行わないが、テスト当日やむを得ない事情で欠席した人は、連絡の上、再受験できる場合がある。
教科書	サブノート形式のプリントを出来るだけ配布します。
参考書	タイトルに「教育心理学」が含まれる書物

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	田中　まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。
授業計画	本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには記せないが、以下のような計画である。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける。 ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける) ・事後研究 　(実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)
授業外における学習（準備学習の内容）	充実した実習になるよう余念なく準備する。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価（50%）、「教育実習記録」（50%）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習I						
担当教員	武藤　眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	4.0

授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員としての資質、能力を習得する。
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。 実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。 毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。
到達目標	学校現場で教科指導、生徒指導、学級指導の実際を身につけ、様々な場面で生徒に対応できるようにする。
授業計画	授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。 ・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等） ・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等） ・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等） ・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等） ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業） ・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等） ・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料等を常に収集し、実習に生かせるよう努める。 授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める。
授業方法	各実習校における実習
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」および各自が記入する「教育実習記録」に基に評価する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税　ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説　外国語編」（開隆堂）¥69＋税　ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税　ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税　ISBN978-4-304-04164-8

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	田中　まき						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育実習
授業の概要	実習校において、実習校の教諭の指導助言に従い、授業やクラス運営などの実習を行う。 なお、実習期間中は、日々の反省を翌日に生かせるよう、所定の「教育実習記録」に毎日、必要事項を記入させ、実習の充実を図る。
到達目標	教職課程科目で学んできた知識や理論に基づき、充実した実習を行う。
授業計画	本授業の大半は実習校において行われるため、回ごとには明記できないが、以下のような計画である。 ・実習校でのオリエンテーション(実習の概要や学校の特色、指導方針等の確認、指導教員との打ち合せ等) ・教育実習(観察、見学、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導等の実習体験) ・「教育実習記録」に日々の記録をつける。 ・研究授業(教育実習の総仕上げの授業) ・研究授業の反省(研究授業終了後、視察教員や実習校の教員から指導を受ける) ・事後研究 　(実習終了後、反省や感想をまとめた報告、実習内容の分析、反省を踏まえた模範的な学習指導案の作成)
授業外における学習（準備学習の内容）	充実した実習になるよう余念なく準備する。
授業方法	実習
評価基準と評価方法	実習校からの報告・評価（50%）、「教育実習記録」（50%）
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習II						
担当教員	武藤　眞一						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	学校現場で教科指導、生徒指導を実地に学び、教員としての資質、能力を見極める。
授業の概要	教職課程科目で学んだ知識や理論をもとに、実習校において担当教科の授業や学級運営などを実習する。 実習校の指導教諭の指導・助言に従い、教材研究や授業計画を行うとともに、生徒指導や部活動指導などの校務も体験する。 毎日「教育実習記録」に必要事項を記入し、指導教諭の点検を受け、指導・助言や反省を翌日以降の実習に生かす。
到達目標	学校現場で教科指導、生徒指導、学級指導の実際を身につけ、様々な場面で生徒に対応できるようにする。
授業計画	授業内容のほとんどは実習校において行われ、概要は次のとおりである。 ・教育実習事前指導（実習の心得、諸注意等） ・実習校訪問（実習校への挨拶、打合せ、心得、担当クラス・教材の確認等） ・実習校でのオリエンテーション（実習校の概要・特色・指導方針の確認、指導教諭との打ち合わせ等） ・教育実習（見学、観察、教材研究、学習指導案の作成、学習指導・生徒指導・部活動指導の体験、「教育実習記録」の記入等） ・研究授業（教育実習の総仕上げの授業） ・研究授業反省会（研究授業後の自己評価、実習校教員等からの指導・助言等） ・事後指導（自己評価・反省・感想のまとめ、「教育実習記録」の提出等）
授業外における学習（準備学習の内容）	生徒に話す材料や指導に役立つ資料等を常に収集し、実習に生かせるよう努める。 授業はもとより学校生活全体を通して、先生方やほかの実習生からも積極的に学び、資質の向上に努める。
授業方法	各実習校における実習
評価基準と評価方法	各実習校からの「教育実習成績報告」および各自が記入する「教育実習記録」に基に評価する。 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税　ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説　外国語編」（開隆堂）¥69＋税　ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税　ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税　ISBN978-4-304-04164-8

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	田中　まき・加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。 本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。 実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。
到達目標	国語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。
授業計画	第　１　回　教育実習の意義と課題 第　２　回　教育実習の日々 第　３　回　生徒指導 第　４　回　教育実習生の授業（国語科における授業の在り方） 第　５　回　教科指導（国語科における教科指導） 第　６　回　先輩に聞く 第　７　回　授業展開の実際（国語における授業展開の実際） 第　８　回　教師の在り方と実践 第　９　回　教育実習を終えて 第１０回　教育活動の諸課題 第１，２，３，６，８，１０回は加藤、第４，５，７，９回は田中が担当する。
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。 常に国語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	「教育実習の研究ノート」の提出状況とその内容50%、授業態度（提出物、意欲、態度）50%で評価する。
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省 「中学校学習指導要領解説　国語編」 「高等学校学習指導要領」文部科学省 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育実習の研究						
担当教員	武藤　眞一・加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	1.0

授業のテーマ	教育実習に向けての教科指導、生徒指導を中心にした指導法の確立
授業の概要	教育実習は、教職を目指す学生が、これまでに学んできたもの、即ち教科に関する専門的な理論や技術、及び教職科目・一般教育科目の理論や知識等を教育現場での実践に結びつける貴重な体験の場である。 本研究では、教育実習の意義と目的を確認し、指導力をさらに向上させ、教育者としての使命と自覚を深めることを目標とする。 実り多い教育実習にするためには、自ら課題を設定し、問題意識を持つことが大切であり、様々な視点から研究を深める。
到達目標	英語科教育法で身につけた指導理論や技法を活用して、実際に授業を行い、あらゆる場面で適切に生徒に対応できる力をつけるとともに、生徒指導や学級運営の具体的方法を身につける。
授業計画	第　１　回　教育実習の意義と課題 第　２　回　教育実習の日々 第　３　回　生徒指導 第　４　回　教育実習生の授業（英語科における授業の在り方） 第　５　回　教科指導（英語科における教科指導） 第　６　回　先輩に聞く 第　７　回　授業展開の実際（英語における授業展開の実際） 第　８　回　教師の在り方と実践 第　９　回　教育実習を終えて 第１０回　教育活動の諸課題 第１，２，３，６，８，１０回は加藤先生、第４，５，７，９回は武藤が担当する。
授業外における学習（準備学習の内容）	教科指導のみにとどまらず、教育実習で実際に生徒を指導するあらゆる場面を想定して準備すること。 常に英語力の向上に努めるとともに、新聞記事などの教育に関連する報道に関心を持つこと。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	授業中の発表や「教育実習の研究ノート」の提出とその内容70%、平常点(関心、意欲、態度)30%で評価する。 履修カルテの評価は、「意欲」「知識」「適性」の３観点で行う。
教科書	必要に応じて印刷物を配布する。
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税　ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説　外国語編」（開隆堂）¥69＋税　ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税　ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税　ISBN978-4-304-04164-8

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育相談の理論と方法						
担当教員	赤津　玲子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	教育相談における様々な対人援助の理論とコミュニケーション
授業の概要	学校には様々な事情を持つ児童・生徒が集まっており、教師は個別に適切な支援を行うことが求められている。そのためには、様々な場面において相手との信頼関係を作ることが必要である。本講義では、様々なカウンセリング理論やコミュニケーションスキルについて学び、良好な人間関係を構築するための基本的な理論とスキルを身につける。
到達目標	生徒や保護者との良好な関係を作るための対人援助理論とコミュニケーションスキルを獲得する。
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　コミュニケーション（１）基礎 第３回　コミュニケーション（２）応用 第４回　コミュニケーション（３）演習 第５回　コミュニケーション（４）グループ発表 第６回　様々なカウンセリング（１）フロイトの精神分析やユングの分析心理学 第７回　様々なカウンセリング（２）ロジャーズの来談者中心療法 第８回　様々なカウンセリング（３）認知行動療法、ブリーフセラピー 第９回　学校現場に必要な精神医学的問題 第10回　小学校における事例　児童の不適応問題 第11回　小学校における事例　ケース会議や他機関との連携 第12回　中学校における事例　保護者や生徒への対応 第13回　中学校における事例　保護者へのコンサルテーション 第14回　学校現場で使えるリラクセーション技法 第15回　総括とテスト
授業外における学習（準備学習の内容）	必要に応じて講義概要のプリントを配布しますので、自分で要点をまとめるようにしてください。
授業方法	事例を提示しながらの講義とDVD
評価基準と評価方法	平常点　30%（出席状況、発表や発言による授業参加） レポート　30% 学期末テスト　40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	必要に応じて授業内で提示します。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教育方法論						
担当教員	大下　卓司						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	授業づくりの基礎・基本
授業の概要	まず、教育目標と教材の関係、教師の指導技術、情報機器の活用方法、教育評価など、授業づくりに必要な基本的な知識と技術を学ぶ。次に、実践事例の分析を行い、先に学んだ事項が実践にどのように具体化されているのかを検討する。以上をふまえて最後に、各自が学習指導案を作成し、受講生同士の相互検討を通してよりよいものへと改善していく。
到達目標	・授業づくりに必要な基本的な知識と技術を獲得する ・これまでに実践されてきた授業を検討し、授業の特徴を把握できる ・学習指導案を作成できるようになる ・受講生同士で他者の指導案を検討し、改善に向けて議論ができる
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業概要の説明／「よい授業」とはどのような授業だと考えるかについて議論する。 第２回　授業の構成要素（１）：教育目標・教材・教授行為・学習形態の概要と、実践に生かす際の留意点について学ぶ。 第３回　授業の構成要素（２）：教育評価の役割と評価方法、評価を行う際の留意点について学ぶ。 第４回　授業の構成要素（３）：効果的な発問や板書の類型や方法について学ぶ。 第５回　教育実践事例の検討（１）：子どもをひきつける教材のあり方について考える。 第６回　教育実践事例の検討（２）：討論を取り入れた授業のあり方について考える。 第７回　教育実践事例の検討（３）：ワークショップ型の授業のあり方について考える。 第８回　教育実践事例の検討（４）：探究型の授業のあり方について考える。 第９回　学習環境の工夫：効果的な学習を実現するための環境づくりについて考える。 第10回　情報機器の活用した授業：ICTを取り入れた効果的な授業方法について学ぶ。 第11回　学習指導案づくり（１）：学習指導案のつくり方について学び、実際に作成してみる。 第12回　学習指導案づくり（２）：学習指導案づくりを行う（前回の続き） 第13回　学習指導案検討会：互いの学習指導案を検討し合い、改善していく。 第14回　子どもとの向き合い方：教師としてどのようなことに気をつけながら子どもと向き合い、教育実践を進めていくのかについて考える。 第15回　まとめと講義全体のふりかえり：教育方法論で学んできたことをふりかえり、ポイントを確認する。
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：前時に行う予告に従い、次時の授業の準備を行うこと。 授業後学習：授業内容をふりかえり、要点の整理を行うこと。また、復習の過程で質問事項が出た場合には、次の授業で質問することによって、授業内容の確実な定着をめざすこと。
授業方法	講義（ただし、グループ活動などの演習的要素を含む）
評価基準と評価方法	・平常点５０％（講義でのワークシートや小レポート）、最終レポート５０％から総合的に判断する。 ・５回以上欠席した場合には単位認定は行わない。 ・「意欲」については、講義への参加の様子やワークシートなどの完成度を中心に評価する。 ・「知識」については、小レポートや最終レポートの完成度を中心に評価する。 ・「適性」については、講義への参加の様子や提出物の完成度を中心に、総合的に評価する。
教科書	田中耕治『新しい時代の教育方法』有斐閣、2013年
参考書	①田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年 ②田中耕治編著『時代を拓いた教師たちー戦後教育実践からのメッセージ』日本標準、2005年 ③田中耕治編著『時代を拓いた教師たちⅡー実践から教育を問い直す』田中耕治編著、日本標準

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（栄養教諭）						
担当教員	山北　人志・加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題
到達目標	学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。
授業計画	第1回　履修カルテへの記録と気づき 第2回　教師の使命感と責任 第3回　教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回　食に関する生徒指導１：個別指導 第5回　食に関する生徒指導２：集団指導 第6回　教職員・保護者に対する対応 第7回　小学校における授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善 第8回　小学校における模擬授業 第9回　中学校における授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善 第10回　中学校における模擬授業 第11回　給食指導における指導力について 第12回　学校給食管理について：講義とグループ討議 第13回　社会人としての基本的態度と組織における協調性１：地域の食育実践から 第14回　社会人としての基本的態度と組織における協調性２：学校における栄養教諭の活動から 第15回　改善された点のチェックと資質・能力の再確認
授業外における学習（準備学習の内容）	なし
授業方法	講義と演習・発表
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果と試験により評価する
教科書	なし
参考書	適宜に担当教員が作成し配布する

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	田中　まき・加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	学校現場で通用する教員を目指して
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイ等を組み合わせて実際の教育現場を想定し下記の教育問題を取り扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力等に関する課題
到達目標	学生が身につけてきた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものである。この科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。
授業計画	第1回　履修カルテへの記録と気づき 第2回　教師の使命感と責任 第3回　教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回　生徒指導１：いじめや不登校などの事例研究 第5回　生徒指導２：保護者の要望への対応などの事例研究 第6回　学級経営１：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレーイング 第7回　学級経営２：生徒用ポートフォリオの作成 第8回　教育実習を体験して分かった弱点（教科指導）の自覚と発表 第9回　授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善 第10回　模擬授業１：教材などの活用と話し方など表現力のチェック 第11回　模擬授業２：形成的評価の観点など 第12回　テストと評価の方法 第13回　社会人としての基本的態度と組織における協調性１：学校観察実習から 第14回　社会人としての基本的態度と組織における協調性２：ボランティア体験から 第15回　改善された点のチェックと資質・能力の再確認
授業外における学習（準備学習の内容）	なし
授業方法	講義と演習・発表
評価基準と評価方法	発表内容や提出物の成果を主資料（70%）として授業の取り組みの姿勢（30%）を加味する
教科書	なし
参考書	適宜に担当教員が作成し配布する

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職実践演習（中・高）						
担当教員	武藤　眞一・加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育実習の経験を踏まえ、学校現場に対応できる資質・能力を伸長する。
授業の概要	主な授業形態は、講義や演習、発表、ロールプレイなどを組み合わせて実際の教育現場を想定し、 下記の教育問題を取り上げる。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する課題 ②生徒理解や学級経営力等に関する課題 ③教科内容等の指導力に関する課題 ④社会性や対人関係能力に関する課題
到達目標	これまでの授業や教育実習を通して身につけた資質・能力が、教員として最小限必要な資質・能力として有機的に統合され、形成されたかを最終的に確認する。この科目の履修を通じて、将来、教員になるうえで自己にとって何が課題であるかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることによって、教職生活をより円滑にスタートできるようになることを目標とする。
授業計画	第1回履修カルテへの記録と気づき 第2回教師の使命感と責任 第3回教育実習を体験して分かった弱点(教科指導以外)の自覚と発表 第4回生徒指導1：いじめや不登校などの事例研究 第5回生徒指導2：保護者の要望などへの対応などの事例研究 第6回学級経営1：年間計画の作成と発表、トラブル解決のロールプレイ 第7回学級経営2：生徒用ポートフォリオの作成 第8回教育実習を体験して分かった弱点(教科指導)の自覚と発表 第9回授業構成の改善：研究授業の教案の提示と改善 第10回模擬授業1:教材などの活用と話し方など表現力のチェック 第11回模擬授業2:形成的評価の観点など 第12回テストと評価の方法 第13回社会人としての基本的態度と組織における協調性1:学校観察実習から 第14回社会人としての基本的態度と組織における協調性2:ボランティア体験から 第15回改善された点のチェックと資質・能力の再確認 第1～7回及び第13～15回は加藤先生、第8～12回は武藤が担当する。
授業外における学習（準備学習の内容）	教育に関する新聞記事やニュースに関心を持ち、当該の問題について自分ならどのように対処するかを考える。 専門である英語についてコミュニケーション能力、文法・語法・語彙、文化的背景の習得に努める。
授業方法	講義、演習、発表、ロールプレイなどを組み合わせて行う。
評価基準と評価方法	毎時間の発表や提出物の内容70%、平常点（関心、意欲、態度）30%
教科書	その都度プリントを配布する。
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥232＋税　ISBN978-4-8278-1461-3 「中学校学習指導要領解説　外国語編」（開隆堂）¥69＋税　ISBN978-4-304-04161-7 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）¥560＋税　ISBN978-4-8278-1478-1 「高等学校学習指導要領解説」文部科学省（開隆堂）¥150＋税　ISBN978-4-304-04164-8

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教職入門						
担当教員	武藤　眞一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	教員という仕事の難しさやおもしろさに触れ、教職を目指して歩み出そう
授業の概要	これまでの生徒・学生の立場から、教員の立場に立って学校教育に係る諸問題をとらえ直し、講義やグループ討議を通して、学校教育の現状や教員に求められる資質や能力を理解する。また、自分が教員としての適性を持っているか、どうすれば教員にふさわしい資質や能力を身につけることができるかを考察する。
到達目標	学習指導や生徒指導の基本的な理論や技法と学校教育に係る諸課題への対応法を習得するとともに、学校運営や学級運営の実際を理解し、自らの教員としての資質や能力を身につけること。
授業計画	第１回　オリエンテーション（教職課程で学ぶということ） 第２回　教員に求められる資質と能力 第３回　生徒と教員が抱える諸問題 第４回　教科指導の在り方 第５回　生徒指導・進路指導の在り方 第６回　問題行動・不登校・発達障害の理解と対応 第７回　学校運営と校務分掌 第８回　学級運営の在り方 第９回　道徳・総合的な学習の時間・特別活動の指導 第10回　家庭・地域・関係機関との連携 第11回　日本の教育制度と教員養成の歴史 第12回　教員の地位と身分 第13回　教育課程の編成と学習指導要領 第14回　学校教育に係る法制度 第15回　まとめ（今後の教職課程履修に向けて）、試験
授業外における学習（準備学習の内容）	一般教養、教職教養と各自の専門科目の学習に取り組むこと。 教育に係る新聞記事やニュースに関心を持ち、自分の考えをまとめること。
授業方法	講義およびグループ討議・発表を並行して進める。
評価基準と評価方法	試験（40%）、提出物・授業中の発表（30%）、授業態度（関心・意欲・態度30%）をもとに評価を行う。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	毎時間プリントを配布する。
参考書	「中学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）ISBN978-4-8278-1461-3　¥244 「高等学校学習指導要領」文部科学省（東山書房）ISBN978-4-8278-1478-1　¥588 「改定新版 教職入門 教師への道」吉田辰雄・大森正編著（図書文化）ISBN978-4-8100-9311-7　¥1890

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	教師論						
担当教員	尾崎　多						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	子ども、保護者、地域から信頼される教師像を追求する
授業の概要	著名な教育者の教育観や教育の移り変わりを熟知したり、現代教師の実態を把握したりしながらながら教師改革の視点を探る。また、教師として好ましい資質を多方面から捉え、信頼される教師をめざす意欲を高める。さらに、理論と現実の融和を図り、確固たる教育観を身につける。
到達目標	今、必要な教師の資質・能力などについて学び、子ども・保護者・地域から信頼される教師像を探る。
授業計画	第1回　オリエンテーション　　専門職としての教師像 第2回　教師としての行き方をさぐる１ - 過去の教育者に学ぶ 第3回　教師としての行き方をさぐる２ - 文芸に描かれた教師像・子ども像 第4回　学校教育の歴史 第5回　教員の職務内容と役割・義務 第6回　教員の資格・資質・能力 第7回　生徒につけたい力 第8回　保護者・地域の要望 第9回　教育課程と学習指導要領 第10回　学習指導の在り方・授業力 第11回　子どもと正面から向き合う生徒指導 - 校則・子どもの権利 第12回　教科外指導 - 防災教育・食育教育 第13回　各校種の実態 - 小学校・中学校・高等学校の実態 第14回　教育観をもつ - 理想とする教師像 第15回　教育観の再考 - めざす教師像
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞、テレビ、雑誌等から、教育や教職に関する情報を入手しておく。
授業方法	講義・演習を中心に行う。
評価基準と評価方法	平常点（授業への参加度・小テスト）　　４割 演習点（提出物・資料整理）　　３割 レポート点(信頼される教師像が描けているか)　３割 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の3観点で行う。
教科書	プリントを配布する。
参考書	１　中学校学習指導要領解説　総則編 ２　『教育六法』　姉崎洋一　荒枚重人　小川正人他　三省堂 ３　『教師論の現在　文芸からみた子どもと教師』　原田　彰　北大路書房

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法I						
担当教員	田中　まき						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	国語科教育の理論の習得と授業演習
授業の概要	国語科教育の意義、目標、方法等について、講義する。 さらに、その理論を実践に生かすべく、学習指導案作成の練習を重ね、それを用いて模擬授業を行う。 また、国語科教育のために、受講生の国語力を向上させるべく、小テストを重ねる。
到達目標	国語科教育の意義、目標、方法等の理論と指導法の習得
授業計画	【前期】 第１回　国語科教育の意義についての講義 第２回　国語科教育の目標についての講義 第３回　国語科に関する教育法規についての講義 第４回　学習指導要領についての講義 第５回　コミュニケーション力養成の演習 第６回　プレゼンテーション力養成の演習 第７回　教材研究と授業の展開の立案についての講義 第８回　教材研究と授業の展開の立案についての演習 第９回　学習指導案作成の講義 第10回　学習指導案作成の演習１ 第11回　学習指導案作成の演習２ 第12回　授業展開の研究１ 第13回　授業展開の研究２ 第14回　国語力養成の演習１ 第15回　国語力養成の演習２ 【後期】 第１回　国語科授業のあり方についての講義 第２回　評論教材の学習指導案作成の演習 第３回　評論教材の模擬授業１ 第４回　評論教材の模擬授業２ 第５回　小説教材の学習指導案作成の演習 第６回　小説教材の模擬授業１ 第７回　小説教材の模擬授業２ 第８回　詩歌教材の学習指導案作成の演習 第９回　詩歌教材の模擬授業１ 第10回　詩歌教材の模擬授業２ 第11回　古文教材の学習指導案作成の演習 第12回　古文教材の模擬授業１ 第13回　古文教材の模擬授業２ 第14回　表現指導のあり方についての講義 第15回　国語科教育についてのまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教員を目指す者として、国語力養成のための勉強を重ねる。
授業方法	講義と演習
評価基準と評価方法	演習内容（学習指導案作成、模擬授業）60% 小テスト（国語力養成のためのテスト）40% 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	『国語科指導法の実践と資料』（双文出版）編著者　大柳勇治・堀江忠道・山本伸二　ISBN978-4-88164- 088-3

参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法II						
担当教員	森　美智代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	国語科単元学習の授業づくり
授業の概要	国語科教育に関する理論的な基礎知識とその実践的展開力を養うことを主な目的とする。個々に学習指導案を作成し、模擬授業を実施・検討を行うことで、国語科授業づくりのための素養を身につける。
到達目標	国語科の教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導計画を作成できること。
授業計画	第1回　ガイダンス（目的と概要） 第2回　国語科教育の歴史（1）戦前 第3回　国語科教育の歴史（2）戦後 第4回　国語科教育の内容と方法（国語科単元学習について） 第5回　読むことの授業づくり（1）文学的文章指導の授業について 第6回　読むことの授業づくり（2）説明的文章の授業について 第7回　書くことの授業づくり 第8回　話すこと・聞くことの授業づくり 第9回　教材研究の理論と方法 第10回　学習指導案の作成（1）目標設定と指導計画 第11回　学習指導案の作成（2）本時の授業計画 第12回　模擬授業の実施 第13回　模擬授業についての検討と授業の再構成 第14回　模擬授業の実施（前回の検討を受けて） 第15回　振り返りとまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教科書に採録されている文章の原典を読んでおくこと
授業方法	講義を中心としたワークショップ型の授業形態
評価基準と評価方法	授業内で出題されるレポート、最終レポート・テストによって評価する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	授業内において適宜紹介する
参考書	授業内において適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	国語科教育法III						
担当教員	森　美智代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	国語科単元学習の授業づくり
授業の概要	国語科教育に関する理論的な基礎知識とその実践的展開力を養うことを主な目的とする。個々に学習指導案を作成し、模擬授業を実施・検討を行うことで、国語科授業づくりのための素養を身につける。
到達目標	国語科の教育内容、教材分析、教育方法を理解し、国語科の学習指導計画を作成できること。
授業計画	第1回　ガイダンス（目的と概要） 第2回　国語科教育の歴史（1）戦前 第3回　国語科教育の歴史（2）戦後 第4回　国語科教育の内容と方法（国語科単元学習について） 第5回　読むことの授業づくり（1）文学的文章指導の授業について 第6回　読むことの授業づくり（2）説明的文章の授業について 第7回　書くことの授業づくり 第8回　話すこと・聞くことの授業づくり 第9回　教材研究の理論と方法 第10回　学習指導案の作成（1）目標設定と指導計画 第11回　学習指導案の作成（2）本時の授業計画 第12回　模擬授業の実施 第13回　模擬授業についての検討と授業の再構成 第14回　模擬授業の実施（前回の検討を受けて） 第15回　振り返りとまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	国語科教科書に採録されている文章の原典を読んでおくこと
授業方法	講義を中心としたワークショップ型の授業形態
評価基準と評価方法	授業内で出題されるレポート、最終レポート・テストによって評価する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	授業内において適宜紹介する
参考書	授業内において適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	書道科教育法						
担当教員	釣　年子						
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	4.0

授業のテーマ	書道科教育法
授業の概要	高等学校芸術科書道の教育内容を理解し、その実践のための具体的な学習指導方法の習得。 高校における芸術の授業をどう考え、実践するか。実技としての特性を踏まえた授業展開、より具体的な学習指導内容、方法、技術を考えてゆきます。国語科書写との関連をはかります。学習指導要領に基づき指導計画の立案や指導方法について考察します。模擬授業を通じて実践力を高めることをめざします。書道実技演習は毎時間行い、実技力、表現力や鑑賞力の向上を目指します。
到達目標	文科省学習指導要領における書道教育について理解し、実技教育の方法技術などを習得する。 教科書の使い方の学習を通して、実技能力の向上を目指す。
授業計画	１）ガイダンス（書道の先生になるために 　　ー教育理念をもとう 　　ー塾と学校教育 ２）書写と書道（１）ー書道教育の歴史 ３）書写と書道（２）ー筆順・反復と模写 ４）書写と書道（３）ー芸術と実用 ５）教育法規・学習指導計画・教科書の扱い方 ６）学習指導要領の検討ー書道ⅠⅡⅢ（１） ７）学習指導要領の検討ー書道ⅠⅡⅢ（２） ８）書写書道専門用語を知ろう ９）実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（１）名前を書こう（楷・行・草） 10）実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（２）色紙に書こう{かな・草書） 11）実技授業とは？高校芸術科書道を体験しよう（兼模擬授業）（３）隷書を書いてみよう 12）臨書について（１）見本と手本・臨と模 13）臨書について（２）臨書の方法・形態・意義 14）臨書について（３）古典臨書 15）臨書について（４）古典臨書 　　ーーーーーーーーーーーーーー １）表現について（１）ー実技力の深化向上 ２）表現について（２）ー臨書と創作指導のあり方（１） ３）表現について（３）ー臨書と創作指導のあり方（２） ４）表現について（４）ー漢字仮名交じりの書と古典 ５）学習指導の要素・方法・形態・技術（１）ー指導目標･基準･過程・形態・技術 ６）学習指導の要素・方法・形態・技術（２）ー示範・批正の学習指導 ７）学習指導の要素・方法・形態・技術（３）ー知識・理解の学習指導・評価の実際 ８）評価について・鑑賞指導法の研究と視聴覚教材の検討 ９）学習指導計画の立案（１）ー年間・単元 10）学習指導計画の立案（２）ー毎時 11）各自の学習指導案の検討（１） 12）各自の学習指導案の検討（２） 13）学生による模擬授業（１） 14）学生による模擬授業（２） 15）模擬授業の検討ー授業のまとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	実技能力の向上は授業外でも努力を望みます。
授業方法	講義と実技を平行して行います。
評価基準と評価方法	出席、提出作品、授業計画の立案、レポートにおいて評価します。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。

教科書	・高等学校学習指導要領解説芸術編（文科省） ・「書Ｉ」（教育図書）野口白汀
参考書	書名・書道の古典（全三冊） 著訳編註名/対等文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBM/4544014336

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	生徒指導論						
担当教員	加藤　巡一						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	全ての生徒のよりよい人格的成長を目指して
授業の概要	現在、社会的に関心の高い学校におけるいじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校等の反社会的問題行動、非社会的問題行動について、教職に就く者に不可欠な学問としての基礎知識、学校の現状把握、問題の解決能力等を高めることを目標としている。特に、ロールプレーイングを含む事例研究を多く取り入れ、一つ一つの事例について学生個人個人はどのように考えるのか、学校の現場ではどのように対応しているかについて体験から述べ、比較しながら解決に繋がるより良い対応を考察する。
到達目標	学校における生徒指導の実態を知り、生徒指導に関する知識、対応、理想の在り方を修得する。
授業計画	第１回　生徒指導の意義 第２回　生徒指導の課題と実践 第３回　生徒指導の基礎理論（適応の概念） 第４回　生徒指導の基礎理論（適応の過程） 第５回　子どもの自我形成 第６回　生徒理解（心理検査） 第７回　生徒理解（まとめ） 第８回　非社会的問題行動 第９回　不登校への対応 第１０回　反社会的問題行動 第１１回　いじめの防止と解決 第１２回　進路指導の意義と実践 第１３回　事例研究 第１４回　生徒指導のまとめ 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	特になし
授業方法	講義、グループ討議
評価基準と評価方法	試験の結果を主資料(85%)として、発表内容や授業への取り組みの姿勢(15%)を加味する。 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の３観点で行なう。
教科書	
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動指導法						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫
授業の概要	近年、児童・生徒が対人関係に悩んだり集団生活に溶け込めないという状況が多く見られる。また、異年齢集団や地域との交流に関して、地域の持つ教育力は極端に弱くなっている。これらの課題に深く関わる特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。そのためには、学級（ホームルーム）活動、生徒会活動及び学校行事等をできるだけ児童・生徒側に企画実践を任せて、教師は距離をおいてそれを見守る指導により、自立した集団と個の育成を図ることが重要である。学生諸君はかつての経験を呼び起こしながら、どうすればより有効な指導になりうるのか体験的に研究する。
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることが出来ること
授業計画	第１回　特別活動の改訂の経緯と趣旨 第２回　特別活動の目標と意義 第３回　特別活動の内容相互の関連 第４回　学校行事のあり方と実践 第５回　グループ別研究（学校行事について） 第６回　発表と検討（1） 第７回　発表と検討（2） 第８回　生徒会活動のあり方と実践 第９回　個人研究（ＨＲの年間計画） 第１０回　学級（ＨＲ）活動のあり方と実践 第１１回　グループ別研究（学級新聞の活用） 第１２回　発表と検討（1） 第１３回　発表と検討（2） 第１４回　特別活動のまとめ 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義、グループ討議・発表
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（80%）として、研究発表の成果（10%）や授業への取り組みの姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう
教科書	高等学校学習指導要領解説　特別活動編 著 文部科学省（東山書房） 中学校学習指導要領解説　特別活動編 著 文部科学省（ぎょうせい）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	特別活動の研究						
担当教員	加藤　巡一						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	生徒にとって学校が楽しくなる工夫
授業の概要	近年、児童・生徒が対人関係に悩んだり集団生活に溶け込めないという状況が多く見られる。また、異年齢集団や地域との交流に関して、地域の持つ教育力は極端に弱くなっている。これらの課題に深く関わる特別活動は、望ましい集団活動を通して自己の生き方を主体的に考え自己実現を図っていける人間を育成するという重要な目的をもっている。そのためには、学級（ホームルーム）活動、生徒会活動及び学校行事等をできるだけ児童・生徒側に企画実践を任せて、教師は距離をおいてそれを見守る指導により、自立した集団と個の育成を図ることが重要である。学生諸君はかつての経験を呼び起こしながら、どうすればより有効な指導になりうるのか体験的に研究する。
到達目標	特別活動の内容を理解し、関連する計画を立てることが出来ること
授業計画	第１回　特別活動の改訂の経緯と趣旨 第２回　特別活動の目標と意義 第３回　特別活動の内容相互の関連 第４回　学校行事のあり方と実践 第５回　グループ別研究（学校行事について） 第６回　発表と検討（1） 第７回　発表と検討（2） 第８回　生徒会活動のあり方と実践 第９回　個人研究（ＨＲの年間計画） 第１０回　学級（ＨＲ）活動のあり方と実践 第１１回　グループ別研究（学級新聞の活用） 第１２回　発表と検討（1） 第１３回　発表と検討（2） 第１４回　特別活動のまとめ 第１５回　質疑応答と試験
授業外における学習（準備学習の内容）	課題学習
授業方法	講義、グループ討議・発表
評価基準と評価方法	定期試験を主資料（80%）として、研究発表の成果（10%）や授業への取り組みの姿勢（10%）を加味する 履修カルテの評価は「意欲」「知識」「適性」の三観点で行なう
教科書	高等学校学習指導要領解説　特別活動編 著 文部科学省（東山書房） 中学校学習指導要領解説　特別活動編 著 文部科学省（ぎょうせい）
参考書	

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳教育の研究						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	道徳教育の授業を倫理学を使って組み立てる。
授業の概要	１．学習指導要領による道徳教育の位置づけについて説明する。 ２．道徳教育の実践を紹介し、その倫理学的な背景を解説する。 ３．指導案作成、模擬授業発表、授業の相互評価を学生が行う。
到達目標	１．学校教育における道徳の役割と指導法を理解する。 ２．道徳教育のあり方を倫理学の視点から振り返る。 ３．学習指導要領を参考にしつつ授業実践力を伸ばす。
授業計画	第１回　オリエンテーション：私語の倫理学 第２回　体験した道徳教育：グループで発表 第３回　指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第４回　指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第５回　道徳の教材研究(1)：自己について 第６回　道徳の教材研究(2)：他者について 第７回　道徳の教材研究(3)：自然・環境について 第８回　道徳の教材研究(4)：集団・社会について 第９回　倫理学からみた道徳：身体の自由は本当か？ 第10回　道徳の指導案作り：全体計画と個別授業 第11回　模擬授業の実践(1)：自己について 第12回　模擬授業の実践(2)：他者について 第13回　模擬授業の実践(3)：自然・環境について 第14回　模擬授業の実践(4)：集団・社会について 第15回　レポート返却と成績説明
授業外における学習（準備学習の内容）	中学校の「道徳の時間」の指導案をしっかり準備すること。
授業方法	１．前半は講義を基本にディスカッションを取り入れる。 ２．後半は学生グループによる模擬授業を中心に進める。
評価基準と評価方法	１．平常点30点（コメント、授業貢献など） ２．模擬授業40点（学生同士の相互評価を含む） ３．学期末レポート30点（模擬授業の考察） ４．履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	井ノ口淳三『道徳教育』学文社、2007年。 ISBN:978-4-7620-1661-5
参考書	『中学校学習指導要領解説　道徳編』

－　　－　　－

科目区分	教職課程科目						
科目名	道徳指導法						
担当教員	松岡　靖						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	道徳教育の授業を倫理学を使って組み立てる。
授業の概要	１．学習指導要領による道徳教育の位置づけについて説明する。 ２．道徳教育の実践を紹介し、その倫理学的な背景を解説する。 ３．指導案作成、模擬授業発表、授業の相互評価を学生が行う。
到達目標	１．学校教育における道徳の役割と指導法を理解する。 ２．道徳教育のあり方を倫理学の視点から振り返る。 ３．学習指導要領を参考にしつつ授業実践力を伸ばす。
授業計画	第１回　オリエンテーション：私語の倫理学 第２回　体験した道徳教育：グループで発表 第３回　指導要領にみる道徳(1)：学校教育の役割 第４回　指導要領にみる道徳(2)：他教科との関係 第５回　道徳の教材研究(1)：自己について 第６回　道徳の教材研究(2)：他者について 第７回　道徳の教材研究(3)：自然・環境について 第８回　道徳の教材研究(4)：集団・社会について 第９回　倫理学からみた道徳：身体の自由は本当か？ 第10回　道徳の指導案作り：全体計画と個別授業 第11回　模擬授業の実践(1)：自己について 第12回　模擬授業の実践(2)：他者について 第13回　模擬授業の実践(3)：自然・環境について 第14回　模擬授業の実践(4)：集団・社会について 第15回　レポート返却と成績説明
授業外における学習（準備学習の内容）	中学校の「道徳の時間」の指導案をしっかり準備すること。
授業方法	１．前半は講義を基本にディスカッションを取り入れる。 ２．後半は学生グループによる模擬授業を中心に進める。
評価基準と評価方法	１．平常点30点（コメント、授業貢献など） ２．模擬授業40点（学生同士の相互評価を含む） ３．学期末レポート30点（模擬授業の考察） ４．履修カルテで「意欲・知識・適性」を評価する。
教科書	井ノ口淳三『道徳教育』学文社、2007年。 ISBN:978-4-7620-1661-5
参考書	『中学校学習指導要領解説　道徳編』